

# 春迎え行事

## オビシヤとオセイレン

## 匠探訪

(35)

平成18年1月の匠瑛市誕生から4年目を迎えました。正月から2月にかけて市内各地区でさまざまな伝統行事が行われ、報道などで目にするとその多様さに驚かされます。

正月に行われる地域や神社での行事を「オビシヤ」や「オセイレン」と呼んでいます。これらは江戸時代から続く寺社の「御奉謝・御備社（オビシヤ）」や「御祭礼」が転じ

て「オセイレン」になったものと考えられます。また、同じ地区内でも男性主体のものを「男オビシヤ」、女性だけにやるものを「女オビシヤ」「女セイレン」と呼ぶところもあります。これらに決まった呼び方はなく、自然に定着したのでしょう。

1873年（明治6年）から現在使われている暦（太陽暦）が採用されましたが、それら行事の日取りは神や仏の縁日によるものが多く、近年では参加しやすいように日曜日などに実施しているところもあります。

1月に行われるものに、弓矢的を射て吉凶を占ったり、15日の松山神社（匠瑛地区）の筒粥（つつがゆ）のように作物の豊凶や天候などを占う年占（としうら）とされるものがあり、年頭の行事といえます。

1月8日には栢田（栄地区）で「仁組獅子舞（にくみししまい）」が行われました。2人で演じる獅子が集落の20数

戸を回り一年の悪魔退散・無病息災、家内安全などを祈願しました。

30年ほど前の調査ですが、旧八日市場地域では正月に行われる「オビシヤ」や「オセイレン」は150を数えました。

2月になると、初午はつうま（や節分など）春を迎える「意味合いの行事が行われま

す。初午は稲荷の祭日であり稲荷神社などで行われ、飯塚（豊和地区）の松峰神社のものは広報紙に掲載されました。

節分は季節が移り変わる時の意味があり、翌日が立春です。市内の神社やお寺では「節分会（せつぶんえ）」があり、悪魔はらいをして春を迎えます。

2月8日前後に行われる「大般若経（だいはんんにゃきょう）」というお経を入れた箱などを若者衆がかついで各家を回る行事や時曾根（豊栄地区）の「大蛇まつり」もこの日が「ことはじめ」であることによります。

農業が主であった時代にはこの日に農作業にとりかかったよつです。暦による季節感は今でも生活に生かされています。

関八日市場図書館 ☎73・3746



豊栄地区時曾根の「大蛇まつり（昨年）」